

31年2月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成31年 2月1日～ 31年2月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
入荷動向	国産材製材品	△ 20.0	△ 20.0	△ 10.0
	外材製材品	△ 37.5	△ 50.0	△ 37.5
	その他	—	—	—
販売動向	国産材製材品	0.0	0.0	0.0
	外材製材品	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	その他	—	—	—
在庫動向	国産材製材品	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	外材製材品	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5
	その他	—	—	—

・国産材、外材製材品の入荷動向は3カ月連続減少。

・国産材製材品の販売動向は3カ月連続横ばい推移。外材製材品、その他とも3カ月連続減少。

・国産材、外材製材品の在庫動向は3カ月連続減少。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	12.5
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	12.5
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	0.0	0.0	0.0
	土台角 12×4	0.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
カマツ土台角10.5×4	—	—	—	
米マツ平角	0.0	0.0	0.0	
米マツ割物	0.0	0.0	0.0	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	0.0	0.0	0.0	

・スギは通し柱12×6は弱保合。その他の品目は横ばい。

・ヒノキ柱角、土台角、通し柱とも横ばい。

・米マツ平角、割物とも横ばい。

・北洋エゾマツ、アカマツタルキは横ばい。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・米ツガ入荷少ない。90、105角は少し出てきた。アカマツ30×40少ない。3mほぼない。WW間柱系が少ない。45×60等変わったサイズは少ない。27×120やめる方向？ 国産材はスギヌキ関係が少ない。販売動向は1～2月と動き悪い。一部の販売店のみ動いている。在庫動向はアカマツ30×40少ない。買っていない。WWは一時的には少し在庫あり。3月の見通しも悪いので、少し買えるものは買っておきたい。全体的には在庫少なめ（関東）。
- ・住宅着工は伸びておらず、入荷は減らしている。販売動向は、ハウスメーカーの仕事を数多く扱っているプレカット工場以外は動きが少ない。大工、工務店向け販売は低調と言える。販売減少に伴い在庫の過多が目立ってきている。買付き在庫を減らしている状態であったが、大工・工務店向け販売が思った以上に良くない（中部）。
- ・丸太が出てきており、市場内の製品在庫も増加傾向。しかしヒノキ胴縁など一部少ない商品があるが、値上り様子はない（中部）。
- ・ヒノキ、WW、アカマツの入荷量が少なく品薄状態。

(価格動向)

- ・スギ柱角（KD10.5cm）65,000円/m³、（KD12.0cm）65,000円/m³、スギ桁角（東北材グリーンラフ）43,000円/m³、母屋角（東北材二等）30,000円/m³、スギタルキ（東北材）45,000円/m³、スギ間柱（特KD）63,000円/m³、スギ加工板（グリーン材）東2,800円、（KD）東4,800円、スギヌキ（東北材）45,000円/m³、スギ平割（プレーナー）48,000円/m³、同（ラフ）45,000/m³、ヒノキ柱角（KD）・土台角10.5cm、12.5cm 85,000円/m³、米マツ平角 KD 70,000円/m³、米マツ割物 AD 75,000円/m³、北洋アカマツタルキ（アSEMBル単価）（S）75,000円/m³、（P）65,000円/m³、（バンドル単価）（S）71,000円/m³、（P）60,000円/m³（関東）。
- ・国産材はスギと通し柱は使われなくなっているため価格は下げている。柱取りの丸太が少し高いため製品価格は現状維持。タルキ、間柱などは横ばいではあるが、価格の下落圧力が生じつつある。ヒノキは柱・土台が不足しているが、現状の価格が高値であるため着工数が増加すると、さらに上がる見込み。現状では横ばいで2～4カ月は動くと考えている。外材は米マツ製品の高騰感は止まったが、在庫の仕入値が高すぎるため販売価格を下げるには時間がかかる見通し。北洋エゾマツ・アカマツタルキは商品の品質が安定しているが、日本向けは高値で止まっている（中部）。
- ・一部小割商品は品薄だが、手当難とまではいかず、顧客は当用買いに徹しているため、価格の変化はない（中部）。
- ・WWの入荷量少なく柱は今後値上り（近畿）。